

上海交通大学医学院附属瑞金病院 視察レポート

附属市民総合医療センター消化器病センター
内視鏡部 福地剛英、池田良輔

私達はこのたび本学協定校である上海交通大学の附属病院の一つ、上海交通大学医学院附属瑞金病院消化器内科に横浜市大市民総合医療センター消化器病センター内視鏡部を代表して訪問いたしました。

附属瑞金病院は上海市内の中心部に位置し、想像していた以上に広大な敷地の中に数多くの施設が林立しており、私達は、まず、その施設全体の規模の大きさに驚かされました。病院に到着後、一行は、貴賓会議室に通され、外来患者の診察等で非常に多忙であるにもかかわらず、また、予定していた蘭州での会議をキャンセルして対応して下さった内視鏡センター主任教授 Dr. Zou Dao Wo、消化器内科 Dr. Chen に加え、Ms. Maggy ら、国際交流担当のスタッフの方々より盛大な歓迎を受けました。

当初、10分程の病院の紹介 VTR を視聴したあと、Dr. Zou から病院の概要、消化器病センターの診療体制、内視鏡による早期がん治療の診療体制などの説明があり、私達からも消化器病センターと内視鏡部の診療や研究の体制等の概要等について説明をさせていただきました。

先方の詳細な説明により、瑞金病院の歴史の深さ、基礎研究から世界基準の技術を用いた最先端の臨床まで幅広い機能を持つ施設であることを知りました。

その後の質疑応答では、日中の内視鏡診療の違いから上海、中国の医療事情など多岐にわたりディスカッションを行うことができました。日本とは昔から縁が深く、交流も積極的に行われており、私達消化器の分野でも古くから定期的に研究会を設けるなど交流が盛んのように思われました。また、中国では患者数も大変多いことから、特に日本の胃癌診断治療分野に対しての関心が高いように思われました。

引き続いて内視鏡センターの日常業務も見学させていただきました。何と言ってもやはり患者数の多さに圧倒されました。多少のシステムの違いがあるものの、多忙の中でも日本と変わらず最新のデバイスを用いて質の高い内視鏡診療が行われていました。

内視鏡の分野では日本はトップランナーとして現在まで世界をリードしてきている状況ですが、現在では中国でも知識、技術、環境的に全く引けをとらず非常に勢いがあると確信しました。

今回、中国の内視鏡診療の現場を初めて見学し、その熱さと勢いを体感することができ、非常に有意義であったと同時に、今後本学も積極的に瑞金医院との研究会などを通じて、定期的に交流すべきであると強く感じることができました。(文責、福地剛英)

訪問先 上海交通大学医学院附属瑞金病院（中国上海市黄浦区瑞金二路 197 号）

VIP（貴賓）会議室および内視鏡センター診察室、処置室

消化器内科、内視鏡センター主任 Dr. Zou Dao Wo

消化器内科 Dr. Chen

他、内視鏡センタースタッフ多数

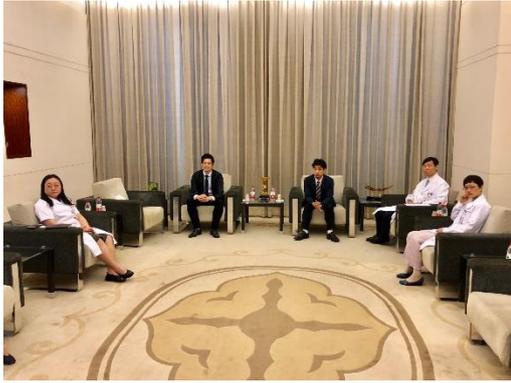
国際交流担当 Ms. Maggi Lin

訪問者 横浜市大市民総合医療センター

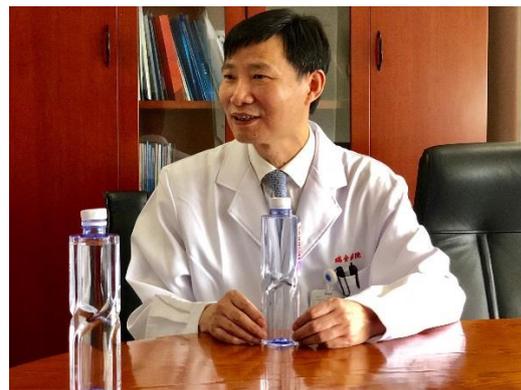
内視鏡部 医師 福地剛英

内視鏡部 医師 池田良輔

管理部 総務課 桑原 明（コーディネーター）



貴賓会議室でのレクチャー



消化器病センターの Dr. Zou、Dr. Chen との意見交換



Dr. Zou との再会の約束し固い握手、院内食堂の前で



院内のコンビニエンスストアとコーヒーショップ